卑弥呼

女王を戴く

芽室西中学校
1年A組
斉藤 ゆな

卑弥呼の登場

卑弥呼てりた時代。このころの時代は複数の国に分かれ争いが絶えなかった。約1800年前、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて、日本が「倭」と呼ばれ人々をまとめるため、占いによって神の告げを聞き、それを人々に伝えたとされています。特に、米作りの時期や戦の方法などを占ったとされ、彼女の言葉通り行動することで人々は成功を収めることができたらしい。卑弥呼は王になってから、君主使いの女性1000人に、身の回りの世話をさせていたらしい。しかも、宮殿にいる卑弥呼を守るため、物見やぐら、さくを設けていつも兵士が見張っていた。

卑弥呼の想像図

卑弥呼は、神がのり人物にすることで、うって、神の言葉を人々に伝える、巫女や魔術師のような人だったと見られています。弟と協力して、政治のやり方を決め、それを、神のお告という形で発表していたのでしょう。お互くにもって、人々の前に姿を見せなかったのは、自分を神のような神秘的な人物にすることで、人々に自分をあがめたり、おそれたりする気持ちを生じさせる目的があったのかもしれません。また卑弥呼は、邪馬台国の女王でして。多くの部族を束ねた卑弥呼の晩年は謎に包まれたまま。墓の特徴は「魏志倭人伝」などの記述によりいくつか判明しています。墓の径は約144mくらいである。「径」という表現から円墳であるす能性が高いこと。墓の中には卑弥呼の棺の他にもう一つ棺がある。造成時期は弥生時代の終末期から古墳時代への移行期である。ハニワはない。以上が卑弥呼の墓の特徴です。これらの特徴も持つ候補がいくつかありますがいずれも決定的な証拠は出てきていません。

卑弥呼

実は…

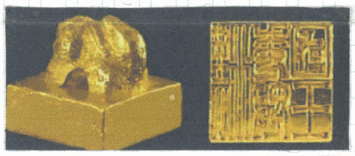
会えません！

編集後記

今まで卑弥呼のことはあまり好きではなかったけれど、この新聞を書いてみて、卑弥呼が巫女だったことや、墓を見せなかったこと、お墓と邪馬台国がまだ見つかっていないことなどを知ることができました。歴史は好きではなかったけど、ある人物の教科書にはのっていないことも調べたりその情報をまとめて書くのが楽しかったです。今度は聖徳太子を調べてみたいと思いました。

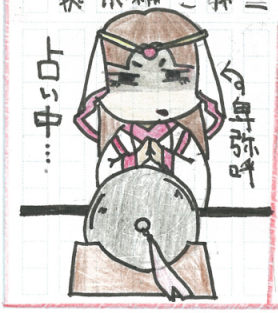
卑弥呼と魏

卑弥呼は、魏の景初3年（239年）に使者を派遣し、魏の皇帝に貢物を献上した。魏の皇帝は、卑弥呼に使節の派遣に対する反礼として、「親魏倭王」の称号と金印、銅鏡などを授与しました。卑弥呼が魏に使節を派遣した目的は主に2つと考えられている。一つめは、国内の対立勢力に対する優位性の確立。中国皇帝の権威を借りて、国内の勢力争いに勝利するため。2つ目は先進文化の導入。魏の文化や技術を導入し国力を向上させるためだと考えられている。卑弥呼は243年にも使者を派遣し、生口、倭錦、丹、短弓矢などを献上したらしい。金印などの授与品は、卑弥呼の政治的な権威を増立する上で重要な役割を果たしました。魏の支援を得ることで他の邪馬台国周辺の国々に対する優位性を高めることができたと考えられています。



卑弥呼 永遠の眠りへ

卑弥呼は、西暦247年頃に亡くなったとされています。卑弥呼の死因はいくつか推測されていますが、はっきりと断定できるような証拠は残されていないらしい。そして卑弥呼の墓はどこにあるのか未だにはっきりと判明していません。普通に考えると、卑弥呼がおさめていた国である「邪馬台国」にあるはず。しかし、邪馬台国自体もどこにあるのか判明していないのです。死因も墓所も判明しておらず



卑弥呼

占い中…

十勝毎日新聞